

思い、思いの



「まちあるき」ミステリーツアー かんたんガイド

今回の巡る場所は必ずしも観光バスがわざわざ横付けになるような場所だけではありません。まちあるきの楽しさはふだん訪れることがないスポットを巡ったり、道すがらに自然を感じながら歴史のかけらを発見することにあります。

●神明坂（しんめいざか）

皇太神社（神明様）はもと下出町の北にあったが享保19年（1740）焼失の後、現在地に建てられた。坂の石段は文化14年（1817）本間家4代光道が市街と湊との交通を便利にすることと、荷物運搬者の苦労を軽くする目的から作られ、神明坂と呼ばれる様になった。



●神明さん（皇大神社）

こうたいじんじゃ

出町に鎮座する皇大神社は、一般に「神明さん」とも呼ばれ、長い間市民に親しまれてきました。祭神は我が国の祖神で、しかも太陽神である天照大神であります。社伝では、慶長3（1558）年に、後藤静治という人が越後の国から酒田の西北にあったお富士さんの砂丘に、皇大神社を勧請したといいます。宝永7（1710）年9月、台町の砂丘へ社殿を造立し、大神宮山と称しました。

●旧割烹小幡

小幡家の祖先は武田信玄の軍師小幡勘兵衛の子孫?と伝えられています。文化12年（1815）現在地を埋め立てて住むことを許され、代々浦役人として移住していたが、明治9年（1868）料亭「小幡」を開いた。ここは日本海、市街を一望できる景勝地であることから「瞰海楼」と命名したと言われる。副島種臣をはじめ横山大観等数多くの政治家、文人墨客が足跡をとどめている。諸般の事情で平成10年に廃業。

●海向寺 かいこうじ

創建は今から1150年前真言宗の開祖弘法大師空海が開山したと伝えられ、後に真然上人が堂宇を建立しご本尊胎蔵界大日如来（湯殿山大権現）を勧請し、忠海上人、鉄門海上人がそれぞれ再建したのち現在に至る。境内には2体の即身仏があります。境内は日和山の一角にあり、本堂、即身佛堂、鐘撞堂、粟島觀音堂、海向寺茶店が建てられています。権現造りと呼ばれる本堂の構えは神佛習合の昔をしのばせる。

●光丘文庫 こうきゅうぶんこ

宝暦8年（1758）本間家3代目の当主 本間光丘は修行のために文庫を兼ねた寺院の建設を江戸幕府に願い出ましたが新寺停止の政策により果たせませんでした。光丘の意志を継ぎ、8代目当主 本間三弥は先祖伝来の蔵書2万冊と建設費、及び維持基金として10万円を寄贈して大正14年（1925）に財団法人「光丘文庫」を設立し、同9月に銅板ぶき、鉄筋コンクリートブロック造りの光丘文庫が竣工。

●光丘神社 ひかりがおかじんじゃ

日枝神社の隣に位置する光丘神社の創建は大正14年（1925）に本間光丘の偉業を偲び建立されました。光丘は享保17年（1732）に酒田に生まれ、周辺の湿地帯を開拓することで大規模な新田を手にいれます。その実席がかれ、藩の事業に参加することになり、特に安永年間（1772～81）に沿岸20キロに渡る防風林の植栽や港湾の整備、新田開発など多くの事業を手がけます。又、文化事業にも力を入れ、菩提寺である唐門や社殿など多くの建物を寄進しています。

●山王くらぶ さんのうくらぶ



●日和山灯台



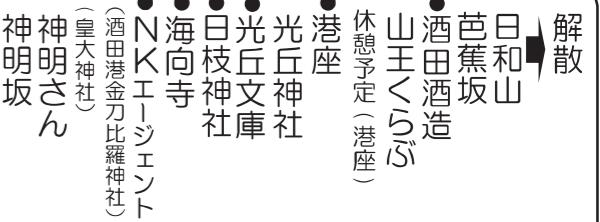
●日和山 ひよりやま 日和山という

地名は全国に80ヶ所以上あると言われています。中でも鳥羽と酒田の日和山は有名。古い時代から港町として栄え、多くの船が出入り、その際に気がかりな日和（天候）を観察した。

酒田「まちあるき」研究会

*表記説明は曖昧なものもありますがご容赦下さる様お願いします。

2011.11.6



●旧港座

明治20年（1887）に、地元の興行師・長崎新吉により芝居小屋として建築された。面積は630平方メートル、回り舞台や花道などを備え、歌舞伎も上演することができたという。

当時は収容人員1000人程と「東北一の劇場」と称された。建築にあたったのは同市の山王くらぶや相馬屋を手がけた名工・佐藤保太郎氏。その精巧な構造により1894年の庄内大地震でも倒壊を免れた。

- ・大正時代から映画を上映。
- ・1953年火災により焼失。
- ・1954年に再建
- ・1977年に3スクリーン体制に。
- ・1993年「宮崎合名会社」に営業譲渡。
- ・2002年閉鎖

2008年9月公開の松竹映画「おりびと」で「納棺の手引き」シーンの撮影が行われたことによって同館を訪れる人が殺到。この動きをみた市民有志が「台町と映画を愉しむ会」と称したサークルを立ち上げ、多くの資金を集め2009年6月に再オープンする。



●石の常夜灯 いしのじょうやとう